

小学五年

国語

解答と解説

1

問一			
な	ば	中	コ
く	出	カ	ン
て	て	が	パ
す	い	必	ス
む	っ	要	を
か	た	な	使
ら	母	の	っ
。	や	で	て
	姉	、	円
	の	そ	を
	こ	う	描
	と	し	く
	を	て	に
	考	い	は
	え	れ	集

21
22
23
24

(完答)

問二	エ	25
問三	エ ↓ イ ↓ ア ↓ ウ	26
問四	④	27
	エ	28
	⑩	
	イ	

問五	イ	29
問六	ア	30
問七	ウ	31
問八	エ	32
問九	ウ	33
問十	1	34
	エ	
	2	
	イ	35

問十一	A	
	ニ	
	ヤ	
	ー	
	ン	
	パ	
	ス	
	B	
	ふ	
	た	
	り	
	の	
	暗	
	号	

(完答)

36

2

問一	動	
	く	
	自	
	由	
	、	37
問二	ウ	38
問三	ア	39
問四	メ	40
	ス	

		5		4		3													
⑥	領土	64	①	厚着	59	①	イ	54	①	ウ	49	問九	気	問七	ウ	45	問五	⑤	
⑦	印税	65	②	枝豆	60	②	ウ	55	②	ア	50	づ	問八	A	エ	41	⑧		
⑧	勇	66	③	横断	61	③	エ	56	③	エ	51	き	問十	ウ	B	ウ	⑩		
⑨	望	67	④	快拳	62	④	ア	57	④	エ	52	ウ		C	カ	問六	参		
⑩	勢	68	⑤	主婦	63	⑤	ウ	58	⑤	イ	53			D	ア	加	す		
																る	自	44	

(配点)

①〔問一〕 8点、〔問二・四〕 各2点、他各5点
②〔問五〕 各2点、他各5点
③④⑤ 各2点

計150点

【解説】

1 瀧羽麻子の『さよなら校長先生』（PHP研究所）から出題

しました。主人公、信介の母は姉だけを連れて家を出ていきました。姉が置いていったコンパスも、家に残された自分も「いないもの」なのだという思いにとらわれ、苦しむ信介の心情を表情や行動から読み取りましょう。

問一

B2 理由 推論

——線①を含む段落に注目しましょう。そこには、コンパスで円を描くときは、「少しでも気を散らすと」すなわち、集中していなければ、うまく描けないとありました。そして、「集中していれば、むだな考えごとをしなくてすむのもよかった。夏休みに入っても母は帰ってこず」ともあります。コンパスで円を「描きまくって」いたのは、それに集中することで、出ていった母親や姉のことを考えないようにしていたのだと考えられます。以上のことから、①コンパスで円を描くには集中する必要がある、②円を描いていけば母親や姉が出ていったことを考えずにすむという二点が押さえられているかどうかのポイントになります。理由を聞かれているので、文末は「〜から。」にするとよいでしょう。

※設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点3点とします。

問二

A2 知識 比較

「はたと手を打つ」は、思い当たったときや、感心したときに

思わず出る動作の表現として使われます。

問三

B1 関係づけ 比較

文の並べ替えの問題です。指示語や接続語、キーワードとなる言葉に注目します。イは二番目にきます。エ「渡されたひらたいクッキー缶の中には」とあることから、イの「中身を食べ終えた後で」の「中身」はクッキーのことであり、エが一文目にくることがわかります。ウに「そのほとんど」とあるので、「ピンク色の猫が描かれて」いるのは、たくさんあるもの、すなわちアの「ペンに：キーホルダー」なのでしょう。ですから、エ↓イ↓ア↓ウという流れになります。

問四

A2 知識 比較

——線④の「容赦」とは、「ゆるすこと」「手加減すること」という意味です。「容赦ない」は手加減しない、という意味になります。この場合は手厳しい、痛烈な、というような意味になるでしょう。——線⑩「ふたつ返事」とは気持ちよく引き受けるとき、快諾するときを使う言葉です。「はいはい」とすぐに返事をする、ということです。

問五

B1 具体化 比較

——線⑤の直後に注目します。「ピンクなんて女子っぽくていやだったけれど、また同じことを言われるのはごめんだった。この家に置き去りにされたという意味では、なんだか同類みたいな気もしなくてはなかった」とあります。黙って受け取った理由は二つ、①伯母から「いらないから、置いていった」ものだと言われるのはいやだから、②ピンクのコンパスと自分は同類

である気がして拒否しきれないから、です。この二つの要素が入っているのはイです。ア「伯母から、今の子どもはものを粗末にする」と小言を言われるのは目に見えている」、ウ「伯母から息子を置き去りにして家を出ていった母の悪口を聞かされることになる」の部分の不適切です。エはコンパスと自分を重ね合わせていることに触れられていません。

問六

B1 具体化 比較

そもそもこの隣席の男子には「悪気はなかった」ことをおさえておきましょう。信介にからんでいったのは単純に「気になった」からです。――線⑥の直後に「隠されてしまうと……興味をそえられる」とあります。このことが押さえられている選択肢はアです。悪意があるイ「からかおう」、ウ「理由を暴こう」は不適切です。エ「何かと理由をつけて」とありますが、信介はこの時「返事をする余裕」すらなかったとありますから、これも不適切です。

問七

B1 具体化 比較

信介が今一番話題にされたくないのは、姉の残していったコンパスのことです。先生にコンパスのことをたずねられて、「うなだれて」います。隣席の男子をひじで突き飛ばしたことにについては、「一方的に叱責されることはなかった」ともありますし、いざこざがおきたのは「ちよつかいをかけていたと……証言」してもらっているのです。アとエは答えになりません。また、ものを大切に云々の話は、「ずれて」いる話題とありますから、イも不適切です。

問八

B1 理由 比較

それまで、先生は、信介に自分の意外な一面を話してしましました。しかし、――線⑧直前で信介は、「わがままを言わないでありがたく使え」と諭したいのかもしれない」と思い当たり、「なんとなく鼻白」んだのです。ですから、「信介が抱えている問題を……聞き出そうとする先生の意図が透けて見えた」とあるアは不適切です。――線⑧の後、信介は姉の残していったコンパスと自分を重ね合わせて苦しんでいる思いをぶちまけています。ものを大事にするとかしないという問題でなく、このコンパスは使いたくないが無下にも扱えないのだ、という、伯母はもちろん、父親にも知られてはいけないこの思いを誰かにわかってもらいたい気持ちもあったと考えられます。そのことを含めて考えるとエがふさわしいといえます。イ「けんかのことをうやむやにしてくれる」と思い、ウ「今の子どもをけなすことで過去を美化する人」の部分が本文の内容とは読み取れません。

問九

B1 具体化 比較

信介は「半ばやけっぱち」になって、本音をぶちまけました。それに対して、先生は「先生は使ってみたいけどな、ニャータンのコンパス」、「大切だから置いていくってことも、ある」と言ってくれました。それは信介にとっては新たなものの見方で、自分「大切だから置いていかれたのかもしれない」、と思えることでもありました。ですから、この「おずおず」は不安な気持ちというより、新たな考え方にふれ驚き、その考えを受け入れてもいいのかと確かめるような気持ちであったと考えられます。よって答えはウです。ア「許しを得られるのかはかりか

ねて、イ「見限られた：不安」、エ「警戒心をとくはじめて」の部分が本文の内容とはあいません。

問十

1 B1 関係づけ 比較

「押したく」とはうやうやしく頭を下げ、与えられたものを上に向かってささげ持つことです。「 を扱う」は「うやうやしく押したく」の様子をたとえた言葉ですから、ここにはエの「宝物」が当てはまります。

2 B1 理由 比較

先生の宝物を扱うようなしぐさが信介の「心をほのかに明るくした」理由を考えます。信介は自分自身もコンパスも「いらなから、置いて」いかれたものだと考えていました。しかし、先生はそのコンパスを「大切だから置いて」いったものだと言ってくれ、宝物のように扱ってくれました。姉の置いていったコンパスに自分を重ね合わせていた信介は、それがうれしかったのでしよう。自分は「いらないもの」ではない、と思えたことに触れられているのはイです。

問十一 B1 具体化 関係づけ

この「まんまるい円」は、先生が信介と交換したコンパスで描いたものです。姉のコンパスを大事に使ってくれている、そのことが信介の心の癒しになったことでしょう。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

2 山極寿一『森の声、ゴリラの目 人類の本質を未来へつなぐ』

（小学館）から出題しました。人間もサルも類人猿も「動く・集まる・語る」という3つを核として暮らしています。しかし、人間は「動く自由・集まる自由・語る自由」をサルたちに比べて格段に拡大させました。そこから得られる「気づき」こそが、人間の生きる喜びだからです。本文では、この3つの核、「動く範囲」、「集まりへ参加する自由度」、「語る力」について、人間とサル・類人猿を比較しながら説明が進んでいきます。読み返すときは、文の構造に注目してください。

問一 B1 理由 関係づけ

設問文に「巣ごもり生活」とありますが、本文でその言葉が含まれた一文には、「職場や学校へ行けず、親しい人にも会えず、オンラインで顔を見てしゃべるだけの生活とはこんなにも苦しいものか、と誰もが感じた」とあります。その直後に「それは、人間の社会が3つの自由によって作られており、緊急事態宣言がそれを封じる結果になってしまったから」と理由が述べられています。「3つの自由」が封じられた、奪われたから、苦しさを感じた、というわけです。ですから、この3つの自由が具体的に書かれている部分を探し、書き抜きましょう。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問二 B1 具体化 比較

問いの「このような違い」とは、「熱帯や亜熱帯の森で暮らすサルたち」の「動く範囲」は1kmなのにに対し、「草原や日本のような雪の上で暮らすサル」の「動く範囲」はその三十倍の

30㎞であるという違いです。――線②の直後にその理由が「食物の量や分布によってそれを探す地域の広さが決まってくるから」と説明されています。具体的に言うくと、熱帯雨林では年中食物には困らないのであまり動かなくて済むが、森の外（草原）では果実を得られない季節があり、エサをもとめて「広く歩き回らなければならない」ので、動く範囲に大きな違いがある、ということなのです。これと同じ意味の選択肢はウです。ア・イは住む場所によって動く範囲が違う理由について説明されていません。エ「日本に住むサルたちは…消化が難しい…ドングリなどを食べるため運動が必要」の部分が本文の内容にあいません。

問三

B1 関係つけ 比較

直前に、サルたちが強靱な胃を持つていないために、食べるものが限定されていて、エサをもとめて歩き回る必要があることが書かれていました。ゴリラやチンパンジーも熟した果実しか食べられないようなので、胃腸はそれほど強いことがわかります。よって答えはアです。イ③の直後の文に「サルよりは広い範囲を動き回っている」とあるので不適切です。ウ「食べる量」については、本文中でどこにも触れられていないことです。エ「群れへの帰属意識」とありますが、「集まる自由」については③の次の段落から語られていることです。なので、これも不適切です。

問四

B1 関係つけ

④直前の段落で、「ニホンザルのメスは生涯自分の生まれ育った群れから離れないし、オスは群れから群れへ渡り歩いていくが…」とあり、サルのメスは群れから離れないこと

がわかります。④を含む文に「ゴリラやチンパンジーはサルとは逆で」とあるので、群れを渡り歩けるのはメスのはずです。現に、④を含む文の直後に、メスが他の群れに入ることが書かれています。※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問五

B1 関係つけ 比較

接続語の問題ですから、前後の文の関係を読みとります。⑤の直前の段落ではメスが群れを移籍することが書かれていました。直後で「オスは決して他の群れには入れない」とあるので、逆の時に使うイの「しかし」か、比較するときを使うエの「一方」があてはまります。⑧本文は、「動く自由」「集まる自由」「語る自由」に焦点をあて、それぞれ人間とサル・ゴリラ・チンパンジーを比べながら、人間が動物たちに比べていかにそれらの自由度が高いかを示しながら論を進めています。⑧以降から「言葉」の話になっていますから、ここから「語る自由」についての説明が始まると考えられます。ですから、ここは並列の接続語「さらに」があてはまると考えられます。⑩の直前で、「3つの自由」が制限されても「オンラインで語る自由は保障されているし…困ることはない」とあり、あとで「果たしてそうだろうか」と疑問を呈しているのので、ここには逆接の時に使うイ「しかし」しかあてはまりません。よって、⑤にはエ「一方」が入るということになり

問六

B1 置換 関係つけ

「集団の出入りに関して許容度」の部分を使い換えます。問五でも触れましたが、本文は人間が生きていく喜びを得る上で欠かせない3つの自由についてサルやゴリラのそれと比べながら書かれており、ここは「集まる自由」について書かれた部分です。それは③の次の段落から始まっています。そこには冒頭に「集まりへ参加する自由度も人間はサルたちとは」とあります。リード文の、集団を「集まり」に言い換えた部分も参考になります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問七

B1 置換 比較

線⑦「これ」とは「人間の社会の本質を示す力」です。サルやゴリラは「集団の出入りに関して許容度」が低く、基本的に属している群れは一つです。一方、人間は、個々人が複数の集団に出入りし、その集団の中での役割を果たしながら暮らしています。そうして「人間の社会」が成立しているのです。このことが押さえられている選択肢はウです。ア・イ「集団の出入り」が自由であることについて触れていません。エ「いつ生まれたのか」ということと「人間の社会の本質を示す力」とは関係がありません。

問八

B1 具体化 関係つけ 比較

線⑨の直前に、「人間の可能性を大きく広げた」言葉の力について説明があります。そこには、「言葉は：時間と空間を軽々と超越して、遠くにあるものや出来事、過去に起こった

事件を：伝えてくれる。だから私たちは自分が経験していない物事を伝え合って知識や知恵を増やすことができる。他の人々の体験を通じて自分にとって新しい出来事にも対処することができる」とあります。この部分を利用してあてはまる言葉を選んでいきましょう。

問九

B1 関係つけ

⑪の直前に「動けず、集まれず、語るだけでは」とあります。人間の「3つの自由」のうちの二つが封じられた状態です。もう一度、「3つの自由」に触れられた二段落目を読みましょう。そこには「人間は毎日動いて、さまざまな集まりに顔を出し、そこで語り合うことによって生きる喜びを得る。『出会い』によって新しい『気づき』を得ることが生きるうえでは必要なのだ。」とあります。人間は、動き、集まり、語り合うことで新しい「気づき」を得ることができるということです。※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問十

B1 具体化 比較

線⑫を含む一文に「それが人間の本性であり」とあるので、直前の文を読み、「それ」が指す内容を確認しましょう。「これから人々がいろいろな規模で動きを強める」こと、です。この「動き」は、文脈から、仲間と「場所と時間を共有」し、仲間と「共鳴できる環境」で「語る」、という動きです。つまり、3つの自由を十分に活用していくということです。答えはウです。

3

A1 知識 比較

打ち消しの漢字が一字目につく三字熟語の問題です。それぞ
れ、下の熟語につながるのはどのような意味の打ち消しの漢
字のかを考えながら当てはめましょう。

非…正しくないといった意味を示す。

不…打消しや否定の意味を示す。

未…まだ…しないという意味を示す。

無…そのものが無いという意味を示す。

① 未完成…まだ完成していない

② 非常識…常識として正しくない、常識ではない

③ 無関心…関心が無い

④ 無分別…分別が無い

⑤ 不注意…気をつけていない

4

A2 知識 比較

品詞の識別の問題です。活用するかしないか、言い切りの形
にした時の最後の音などに注目しましょう。

① ア・ウ・エは活用があり、最後の音を伸ばすと「歩くーウ」
のように、ウで終わることから動詞です。「競争」は活用し
ません。これは名詞です。

② すべて活用する言葉なので、最後の音に注目しましょう。ウ
だけ形容動詞、ア・イ・エは形容詞です。

③ すべて名詞です。ただ、エの「神社」が一般的な名詞である
のに対し、ア・イ・ウは人名や地名など、そのものだけに
けられている固有名詞です。

④ イ・ウ・エは前の言葉や文と後ろの言葉や文をつなぐ役目
をする接続詞です。アは動詞や形容詞の意味を強めたり、くわ

しく説明したりする副詞です。

⑤ ウの「それ」は人やモノ、方向や場所などの名前の代わりに
使う代名詞です。ア「この」、イ「あんな」、エ「あの」は名
詞を修飾する連体詞です。